

～海外情報～

2012年5月14日 全2頁

中国：景気下支えを目的に預金準備率を再引き下げ

経済調査部
齋藤尚登

[要約]

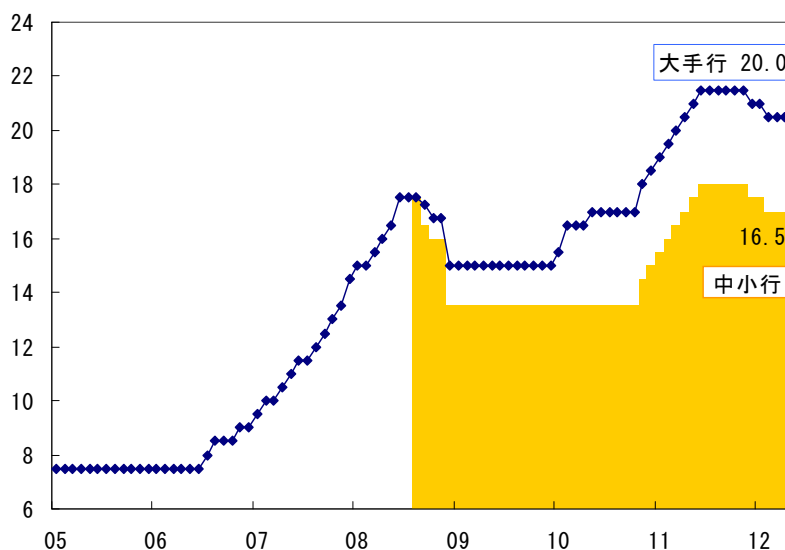
- 中国人民銀行は5月18日から預金準備率を0.5%引き下げると発表した。今後、景気が底を打ち、緩やかながらも着実な回復が確認できるまで、「預金準備率引き下げ+優先分野への貸出増加を目的とした窓口指導」が続けられよう。大和総研では、年内にあと2回の預金準備率引き下げを想定している。利下げについては、「景気刺激+預金者保護（実質預金金利をプラスにする）+銀行の利益独占批判への配慮（預貸スプレッドの縮小）」の解として、貸出基準金利のみを引き下げる可能性がある。4月～6月の経済指標が上向くことが確認できなければ、貸出基準金利が引き下げられる可能性がでてこよう。

昨年12月以来3回目の預金準備率引き下げ

大手行の預金準備率は20.0%に

中国人民銀行は5月12日夜、預金準備率を18日から0.5%引き下げると発表した。昨年12月に引き下げに転じてから、2012年2月、そして今回とあわせて3回の預金準備率引き下げが実施されることになる。5月18日以降、大手行は20.0%、中小行は16.5%の預金準備率が適用される。

大手行・中小行の預金準備率の推移（単位：％）



(注1) 中国人民銀行公表分のみ掲載、対象・期間限定のものは除外

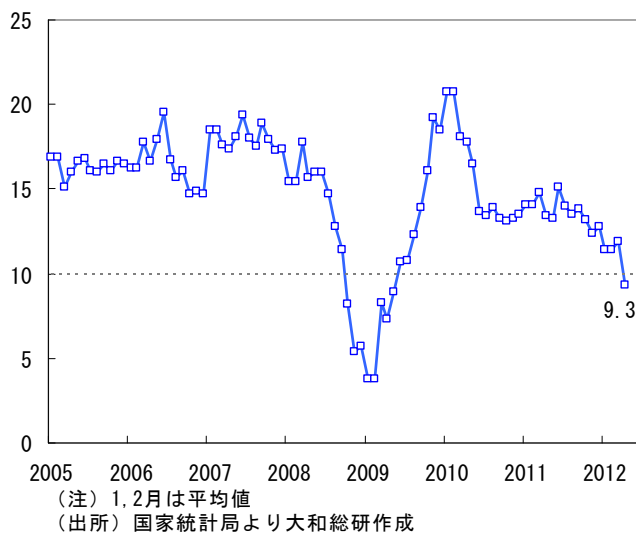
(注2) 大手行20.0%、中小行16.5%の預金準備率の適用は2012年5月18日以降

(出所) 中国人民銀行より大和総研作成

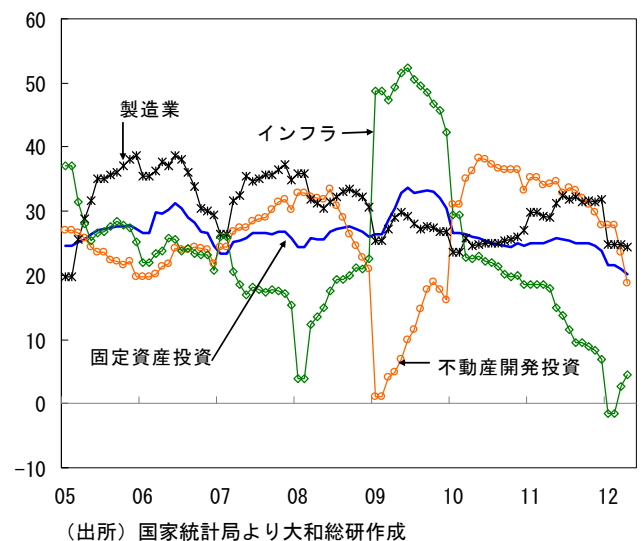
4月の主要経済統計は 景気減速の継続を示 す

5月11日に発表された4月（もしくは1月～4月）の主要統計はいずれも伸びが鈍化し、景気減速が続いていることが示された。4月の鉱工業生産（実質）は前年同月比9.3%増と、3月の11.9%増から2.6%ポイント減速。鉱工業生産が1桁の伸びにとどまったのは2009年5月以来3年ぶりである。内需の弱含みに加え、4月の輸出の伸び低下（3月の8.9%増⇒4月は4.9%増、EU向けは2.4%減）が響いている。4月の社会消費品小売売上は名目14.1%増、実質10.7%増と、3月の名目15.2%増、実質11.6%増から減速した。1月～4月の固定資産投資は、インフラ向けの持ち直しなどもあり、前年同期比20.2%増（1月～3月は20.9%増）と相対的に堅調だったが、不動産開発投資は18.7%増と、1月～3月の23.5%増から4.8%ポイントの大幅減速となった。

鉱工業生産（前年同月比、%）



固定資産投資（1月から累積の前年同期比、%）



景気下支えを目的 に、さらなる預金準備 率引き下げを想定

今回の預金準備率引き下げは、発表のタイミングからしても、景気下支えを目的としたものであることは明らかである。今後、景気が底を打ち、緩やかながらも着実な回復が確認できるまで、「預金準備率引き下げ+優先分野への貸出増加を目的とした窓口指導」が続けられよう。大和総研では、年内にあと2回の預金準備率引き下げを想定している。

貸出基準金利引き下 げの可能性も

利下げについて、4月の預金が前月比4,656億元の減少となるなか、預金金利を引き下げる可能性は低い。足元で若干のプラスとなった実質預金金利（1年物預金金利3.5%－4月のCPI3.4%＝+0.1%）が、再びマイナスに転じてしまうためである。5月1日付け大和総研海外情報では、「景気刺激+預金者保護（実質預金金利をプラスにする）+銀行の利益独占批判への配慮（預貸スプレッドの縮小）」の解として、預金金利は据え置き、貸出基準金利のみを引き下げる可能性を指摘したが、この見方に変更はない。ちなみに、同様の金利政策は2008年9月に実施されたことがある（1年物預金金利は4.14%で据え置き、1年物貸出基準金利は7.47%⇒7.20%へ引き下げ）。4月～6月の経済指標が上向くことが確認できなければ、貸出基準金利が引き下げられる可能性がでてきよう。

以上